

公立大学法人横浜市立大学 第3期中期目標（H29～34）策定に向けて（参考資料）

前回の評価委員会で、第3期の中期目標策定にあたっては、「市が有する大学としての意義を念頭におき、過去2期の中期目標期間における達成状況や、18歳人口の減少・超高齢社会の到来といった今後の社会情勢を踏まえた基本目標を策定する。」としていました。

今後、「策定方針」をまとめるにあたり、本資料では、これまでの法人評価委員会でのご意見や横浜市として市大に貢献を期待したい項目を、議論の参考といたく例示しています。

本日いただいたご意見も参考にしつつ、第3期中期目標の「策定方針(案)」について、次回評価委員会に提出します。

1 大学の基本的な目標について

中期目標の冒頭で掲げる「大学の基本的な目標^{*}」については、第2期の目標を基本的に踏襲しつつ、評価委員会等での議論を通じ、必要な修正を加えていきたい。

※第2期中期目標「大学の基本的な目標」

横浜市立大学は、知識基盤社会の進展の中で、横浜市が有する大学として、発展する国際都市・横浜とともに歩み、大学の国際化を進め、グローバルな視野をもって活躍できる人材を育成すること。また、研究成果や知的財産を活用して、横浜市を始めとした大都市の抱える課題、横浜市民の生活に密着した課題等に対して積極的に取り組むこと。

この2つの目標を実現するため、「教育重視・学生中心・地域貢献」という基本方針のもと、横浜市立大学の自主的・自律的な運営と更なる発展を目指して、第1期中期目標期間(平成17年度から平成22年度まで)中に整備した組織・体制の強化と、教育研究を一層活発に進めるための取組について、具体的な中期目標を定める。

2 分野ごとの目標について

「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」など、分野ごとの目標については、法人評価委員会での評価や、横浜市の中期4か年計画の推進等のために貢献を期待したい以下の項目を、評価委員会等での議論を通じ、目標への反映を検討していきたい。

○基本的な方向性

グローバル都市横浜に立地する大学としてふさわしい国際性を有し、市民の誇りとなり、横浜の価値を高める大学となるよう目標を定める。

1 教育に関して

18歳人口の減少に伴う大学間競争の激化が見込まれる中で、優秀な学生に選ばれる大学として時代の要請に応えた教育の質の保証・向上に取り組む。また、県内唯一の医学部を有する公立大学として、政策的医療や地域医療体制の充実に一層の貢献を目指す医学教育に取り組む。

<想定される取組>

- ①グローバル人材の育成に資する英語教育の更なる充実
- ②アカデミックコンソーシアムにおけるネットワークの教育・研究面における具体的取組への活用
- ③医学教育の国際基準への対応(2023年問題への着実な対応)
- ④超高齢社会を見据え、総合診療医の育成に向けた教育体制、地域の医療機関との連携協力体制等の構築
- ⑤学生へのモラルを含むプロフェッショナリズム教育の徹底
- ⑥県内唯一の公立大学医学部としての将来的な医学部の定員数
- ⑦学術院での「質的改革(将来構想)報告書」の具体化に向けた取組等、学術院の積極的な活動
- ⑧優秀な人材の確保に向けた学費免除制度等の学生に対する支援制度の検討
- ⑨国の高等教育施策の動向も踏まえた横浜市立大学としての学系やコースのあり方

2 研究の推進に関して

引き続き、基礎研究及び国際社会や地域社会の要請に応えた学術研究を推進する。また、先端医科学研究センターを中心に、基礎医学で得られた成果を臨床現場で実践できる医療技術に橋渡しするための研究を着実に推進する。さらに、得られた研究成果の教育への反映や地域・社会へ還元することで、市大の一層のプレゼンス向上を図る。

- ①研究費の獲得拡大に向けたURA(リサーチ・アドミニストレーター)システムの機能強化
- ②先端医科学研究センターにおける橋渡し研究の成果の還元
- ③国家戦略特区における臨床研究の着実な推進
- ④京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区における共同研究の推進

3 地域貢献に関して

大学の知的資源や研究成果の地域への還元、診療を通じた市民医療の向上により、市民及び地域社会に貢献し、市民が誇りうる大学としての使命を果たす。あわせて、横浜市が進める「横浜型学術都市の形成」において、市大としての役割を発揮する。

<想定される取組>

- ①横浜市をはじめとする大都市の抱える課題の解決、市民へ貢献する人材の育成
- ②「地(知)の拠点整備(COC)事業」など、地域貢献活動のより一層の推進
- ③市の抱える課題解決への寄与
- ④地域医療を支え、市大のプレゼンスを向上させるための、戦略的な医師派遣の推進

4 国際化に関して

グローバル人材の育成や横浜市が目指すグローバル都市の実現に向け、国際社会に開かれ、国際競争力のある魅力的で存在感のある大学を目指す。

< 想定される取組 >

- ① 真の国際化に向けた明確な計画や目標の策定及び実現
- ② 留学生の質の確保とともに、留学生に選ばれる大学づくりに向けての総合的かつ戦略的な取組
- ③ グローバル人材の育成に資する英語教育の更なる充実【再掲】
- ④ 医学教育の国際基準への対応(2023年問題への着実な対応)【再掲】
- ⑤ アカデミックコンソーシアムにおけるネットワークの教育・研究面における具体的取組への活用【再掲】

5 附属2病院(医療)に関して

附属2病院が、それぞれの特徴を發揮しつつ、適切な役割分担のもとで、引き続き横浜市が行う政策的医療への積極的な取組や地域医療への貢献、大学病院として高度先進医療の提供に取り組む。

< 想定される取組 >

- ① 「横浜市がん撲滅対策推進条例」において求められている総合的がん対策への取組
- ② 専門医制度改革に対する専門医資格取得体制の整備
- ③ 医師・看護師等、優秀な医療スタッフの確保のための環境整備の推進
- ④ これまでの医療事故への反省を踏まえた医療安全管理体制の充実と医療安全文化の醸成
- ⑤ 運営体制の強化と経営の効率化
- ⑥ 臨床研究ネットワークを活用した臨床研究中核病院機能の發揮と円滑な運営
- ⑦ 大学病院として高度先進医療を提供する機能を保持するための医療機器更新サイクルの確立

6 法人経営に関して

これまでに構築してきた理事長・学長を中心としたガバナンスのもと、法人全体のコンプライアンスの強化や経営の効率化を図るなど、市民の信頼を一層向上させる取組を引き続き推進する。また、今後の社会情勢や横浜市政の状況を見据えた長期的視点を持ち、大学をさらに発展させるための取組を推進する。

< 想定される取組 >

- ① 教職員一体となったコンプライアンス意識の醸成
- ② 研修体系や資格取得支援制度等の各種制度改善による職員の人材育成
- ③ 教職員の個人情報保護に関する意識の向上及び個人情報漏えいを防止するための組織的及びシステムの改革の推進
- ④ 後援会組織の機能強化も含め、寄付制度の充実等による自己収入の確保の推進
- ⑤ 経営効率の改善による人件費・経費の節減
- ⑥ 広報の充実及び情報共有による法人構成員の一体的意識の醸成
- ⑦ 法人施設の維持・管理・長寿命化等を含む計画的な整備体制の構築